1963年(昭和38年)～1978年(昭和53年)

ここに記す内容は、現存する例会報告、会計報告、例会･撮影会開催案内等の各種運営資料に基づき、編集者(浅野克憲)が纏める。

名古屋支部の設立は昭和38年と記録されているが、現存する最古の会員名簿、例会記録(成績)等の資料は、昭和45年度の記録からとなる。支部設立からの6年間の記録は残念ながら失われているが、昭和45年以降の例会案内や手記の中に、「設立8年目をむかえ･･･」等の記述が残っているものもあり、それらの内容が一致することから、昭和38年設立を根拠とした。

なお、明確に昭和38年設立が明示されたのは、平成6年に開催された(第1回)名古屋支部作品展の冒頭の挨拶文である。

創設期の活動は、毎月例会を開催し、主要メンバーが国際サロン、中部本部公募展、県本部全紙展等に積極的な応募を実施していた。

例会は毎月開催され、天野正明先生、蜂須賀秀夫先生、北浦和夫先生、坂田定三先生らを講師に迎えた活動記録が残っている。

また、会員数の増強を図るため、1971年には前年開催された「エンゼル支部結成記念写真コンクール」等を参考に、中部本部後援のもと、「名古屋支部写真コンクール」を、名古屋支部所属、または名古屋市在住･在勤者を対象としたコンクールとして主催するなど、積極的な活動を実施していた。

しかしながら、設立13年目を迎える頃から、次第に例会参加者が減少し、少ない場合は10名を切るような状況となっていたようである。

このような状況を苦慮した当時の堀沢支部長は、市内在住の全日本写真連盟個人会員にむけ、支部参加への勧誘を実施するなど、支部活動の存続のため尽力された記録が残っている。

また、現在も重要な支部活動として継続している、中部本部主催「この日この時撮影会」にあわせた支部撮影会も始まっている。

この時期に日比野聖功さんが支部に加入され、現在まで支部活動の重要な役割を担って頂いている。

1979 年(昭和54年)～1993 年(平成5年)

この時期の名古屋支部の活動は、毎月開催される例会を基本とし、年に2回の支部撮影会を実施している。また、「あかとんぼ支部」「アポロ支部」等近隣支部との合同例会を開催するなど、他支部との交流も盛んであった。

支部例会はなるべく多くの目で作品を批評してもらおうという理念の下、天野先生、峰須賀先生に加え、水野一秀先生、内海薫先生、木村博先生、中根不二夫先生ら、多くの講師の先生方のご協力を得て、支部例会を運営していた。現在講師を務めていただいている、池俣淳先生をはじめ、長年、ご指導頂いた秋山俊介先生もこの時期から名古屋支部に携わって頂いている。

1979 年(昭和54年)には、支部写真展の起案があり、堀沢支部長のもと検討が進んでいた。しかしながら、当時の写真展は全紙パネルが一般的であり、会場となるワキタギャラリー様との交渉も完了し、昭和55年秋の開催を目指していたが、作品を準備できないという意見や、展示数の問題などから断念されている。

写真展の代替というわけではないが、支部主催の撮影会については、より活況となっており、当時各支部でも頻繁に行われていた、モデル撮影会や、ヌード撮影会を名古屋支部でも定期的に実施していた記録が残っており、当時の例会1席作品にもそれら作品が多く残っている。

支部の活動状況としては、精力的ではあったが、一方で会員数の減少は常に課題となっており、当時本部より支部活動支援を得られる20名の会員確保に、毎年頭を悩ませていた様子が記録されている。

なお、この時期には、現在も中心となって活躍いただいている、有元さん、渡辺さんが加入されている。

時代が平成に入る1990年(平成2年)6月例会より、例会の開催を隔月開催とする変更が実施され、この形式は現在も継続されている。

1994 年(平成6年)～2008 年(平成20年)

この時期の名古屋支部の活動は、隔月開催となった例会開催形式の変更と共に、支部活動の柱として「名古屋支部作品展」を毎年ワキタギャラリー様のご好意のもと開催することとなった。

作品展(写真展)の開催記録として正式に残っている資料は、1994年(平成6年)の「名古屋支部写真展」である。この写真展の作品準備案内等の記述から、前年にも写真展を開催していたことが記録されているが、現在「第21回」を迎えた「名古屋支部作品展」は1994年の写真展を初回としている。

支部の構成部員は10名前後を推移しており、多くのメンバーは写歴の長いベテランが多くなってきた。講師は池俣先生、秋山先生、中根先生に交代でご指導頂いていた。

また、過去に開催されていたような支部撮影会も、「この日この時」撮影会を除き、ほとんど開催されていない。見学に訪れる個人会員は多いが、加入に至らないケースが多く、残念ながら初心者会員には少々敷居が高い雰囲気が出来てしまった印象がある。

ただし、この時期には、仲野さん、出水さん、若林さん、浅野現支部長が加入しており、現在も支部活動の中核を担っている。

支部活動としては大きな変革がない時期であったが、一点大きく変化したものが、我々を取り巻くカメラ事情である。

フィルムカメラに代わる撮影機材として、デジタルカメラが普及し始めたことをうけ、支部でもデジタルカメラの研究が有志により開始される。

中部本部主催の「デジタルフォト研究会」に多くの部員が参加するなど、名古屋支部の主要メンバーはデジタルカメラ普及初期から積極的にデジタルフォトに携わり、デジタル処理を作品に取り入れる研究を現在も積極的に続けている。

A3用紙出力が可能なプリンターの普及に伴い、作品展も自家プリントを実施する部員が目立つようになってきたが、フィルムカメラでの作品作りも継続されており、それぞれの良さを探求してきた時期である。

2009年(平成21年)～2014年(平成26年)

デジタルカメラの性能が急速に向上し、解像度が高く、半切、全紙プリントに耐えうる作品作りが容易になったことから、名古屋支部でもデジタル化が更に加速した。また、中部本部での「デジタルフォト研究会」が解散となり、花嶋さん(休部中)、浅野(克)が加入したことを契機として、支部内でデジタル処理への正しい理解を再認識しようという動きが強くなったのがこの時期である。

例会運営も、新たに伊藤滋先生、中村治朗先生、デジタル処理に造詣の深い大嶋武夫先生にご指導いただく機会を設け、新たな変革の時期を迎えようとしている。

また、鈴木さん、日比野幸子さんをはじめ女性の感性が加わり、ベテランが中心の中にも、親しみやすい環境が整ってきた。これらの変化をうけ、会員数の減少対策として、名古屋支部では初心者を受け入れられる環境づくりについて、積極的な討議が例会内で実施されることが多くなってきている。

名古屋支部としては、初心者向けの企画として、近年、東山動植物園での撮影会の実施や、有志によるデジタル処理の基礎確認講座の実施等を試行している。これらの活動については、今後も定期的に実施していく予定である。

今回改めて「史料」と言っても過言ではない、過去の資料を整理しながら、記録の裏に込められた先輩諸氏の写真への厚い情熱を感じ、今後も伝統ある名古屋支部の存続に微力を尽くしていきたいと感じております。最後になりましたが、名古屋支部を支えて頂いた、先輩諸氏ならびに、ご指導いただいた先生方、全日本写真連盟本部のご支援をもって50年を迎えることが出来たことを、深く感謝いたします。

2014.年7月7日　名古屋支部50周年史編集担当　浅野 克憲